

学校だより 6月号

令和元年 5月31日
鴻巣市立小谷小学校

小谷っ子

TEL 048 (548) 1004

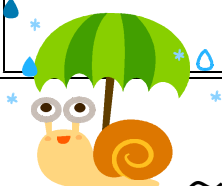
FAX 048 (547) 1467

URL

<http://koya-e.konosu.ed.jp>

e-mail koya-e@city.konosu.ed.jp

毎月19日は「食育の日」です



【学校教育目標】 夢・希望にあふれる心豊かな児童の育成



「江戸しぐさ」が教えてくれるもの
～ほんの少しの「気配り」が穏やかな社会をつくる～

校長 池澤 道弘

新たな元号「令和」になって1か月が過ぎました。無意識のうちに「平成」と書いてしまうこともまだありますが、ようやく「令和」という元号にも馴染んできたような気がします。

現代社会は、かつて言われていた「10年ひと昔」よりもっと短いスパンで社会の状況が変わっています。特に「平成」の後半は、インターネットやスマートフォン、AIなど、かつてなかった新しい技術が次々と登場し、人々の生活も大きく変化しました。こうした環境の変化に伴い、人々の価値観も多様化してきています。何を大切にするかは人それぞれですし、価値観の多様化そのものは決して悪いことではないと思うのですが、反面、独りよがりな考えが横行してしまう危険性もはらんでいると思います。

以前ある本でこんな話を読みました。レストランで、その本の著者が食事をしていたところ、小さな子どもを連れた母親のグループが入ってきて、食事を始めました。しかし、小さな子どものことですからお母さん達がおしゃべりをしているうちに飽きてきて、足をバタバタさせたり、食器で遊び始めたり、ふざけ始めたりしました。その様子が目に余ったのでしょう。ある人が店員に注意を促し、店員が他のお客もいるので静かにしてくれるようお願いをしたところ、そのお母さんは、ややヒステリックにこう言ったそうです。「子どもは、静かにしていられないのは当然です！それなのに静かにしろというのは、私達は子どもを連れて食事する権利がないということですか！」著者はその光景を見ていて、その独りよがりな考えに愕然としたそうです。「そのお母さんの理屈は、周りの静かに食事を楽しみたい人の権利を全く考えていません。自分達の権利を主張するためなら他の人の権利など、どうでもいいとでも思っているのでしょうか。」著者はこの出来事のことをこう締めくくっています。

かつて日本は、今ほど豊かではありませんでしたが、その分皆が助け合って生きていたのではないのでしょうか。ご存知の方も多いかと思いますが、江戸時代には人とすれ違う時に肩を引く「肩引き」、傘を傾けてすれ違う「傘かしげ」など「江戸しぐさ」と呼ばれる礼儀作法や粋なしぐさがあったという説があります。今風に言えば江戸町民の「公衆マナー」「コミュニケーションスキル」とでも言うべきものです。狭い江戸の町で「江戸っ子」といわれていた町民が使っていた、世間との付き合い方や他人とのかかわり方などの所作である江戸しぐさは、日本特有の「相手を思いやる心」を形にしたものと考えられています。後の「空想・創作」ではないかという反論もありますが、いずれにしてもお互いが気持ちよく生活するためには、ほんの少しの気配りが大切であることには異論はないと思います。技術が発達し、豊かな社会になり、価値観が多様化した現代においても、人間関係が希薄にならないよう、それぞれが思いやりをもって生きる「江戸しぐさ」の精神は受け継いでいきたいものです。



教育実習生紹介

5月20日から6月14日までの4週間、本校卒業生である明星大学の崎野峻也さんが、3年生で教育実習を行っています。教職員全員でよりよい実習になるよう支援してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。